

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 章二、林 栄昭 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 発達障害や軽度知的障害やその他の理由から特別なニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難さを理解し、対応するために必要な知識や支援方法を理解する 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害特性や心身の発達、また教育課程及び支援の方法について理解し、概要を説明することができる。			
授業の概要 特別な教育的ニーズのある幼児、児童または生徒の障害の特性や心身の発達、困難な状況について理解し、さらに対応する教育課程や支援の具体的な方法について理解する。			
授業計画 第1回： 子どもの発達の理解（担当：高橋 章二、林 栄昭） 第2回： 軽度知的障害の病態、社会経済状況との関連を含めて理解する（担当：高橋章二、林栄昭） 第3回： 第一および第二言語の習得およびその遅滞・障害（担当：高橋 章二、林 栄昭） 第4回： 視覚障害・聴覚障害の医学（担当：高橋章二、林栄昭） 第5回： 発達障害の病態理解と支援（担当：高橋章二、林栄昭） 第6回： 肢体不自由の病態理解と支援（担当：高橋章二、林栄昭） 第7回： 病弱の医学と学校教育（担当：高橋章二、林栄昭） 第8回： インクルーシブ教育と特別支援教育（担当：高橋章二、林栄昭） 第9回： 特別支援教育と教師教育（担当：高橋章二、林栄昭） 第10回： 特別なニーズのある生徒の学習上または生活上の困難（担当：高橋章二、林栄昭） 第11回： 発達障害のある生徒に対する具体的な支援（担当：高橋章二、林栄昭） 第12回： 軽度知的障害やその他の教育的ニーズのある生徒への具体的支援（担当：高橋章二、林栄昭） 第13回： 学校教育における「通級指導教室」及び「自立活動」（担当：高橋章二、林栄昭） 第14回： 個別の指導計画や個別の教育支援計画の意義とその作成（担当：高橋章二、林栄昭） 第15回： 特別なニーズのある生徒に対する家庭や関係機関との連携支援（担当：高橋章二、林栄昭） 定期試験			
テキスト 青山新吾編集代表（2016）『インクルーシブ教育ってどんな教育?』学事出版 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼・小・中）／文部科学省 特別支援学校 学習指導要領解説 自立活動編			
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する			
学生に対する評価 授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名： 特別支援教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野呂 浩志 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育について広汎な知識を涉猟し、障害をはじめとする特別な教育的ニーズを抱えた幼児・児童・生徒の教育について説明できるようになる。			
授業の概要 この授業は、特別の支援を必要とする生徒の理解と特別な支援を必要とする生徒の教育課程及び支援方法、及び障害はないが特別な教育的ニーズのある生徒の把握や支援の方法について取り扱う。反転学習をはじめとするアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ理解を深める。			
授業計画 第1回： イントロダクションー特別支援教育の理念と制度（1） 第2回： 特別支援教育の理念と制度（2） 第3回： インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒 第4回： 特別支援教育の歴史 第5回： 特別支援教育の教育課程 第6回： 視覚障害の理解と教育 第7回： 聴覚障害の理解と教育 第8回： 知的障害の理解と教育 第9回： 肢体不自由の理解と教育 第10回： 病弱・身体虚弱の理解と教育 第11回： 自閉症・情緒障害の理解と教育 第12回： 言語障害の理解と教育 第13回： 学習障害の理解と教育 第14回： 注意欠陥・多動性障害の理解と教育 第15回： 教育と福祉・医療・労働との連携 定期試験			
テキスト 吉田武男監修、小林秀之、米田宏樹、安藤隆男著 『特別支援教育ー共生社会の実現に向けてー』 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名： 知的障害児の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野呂 浩志、安永 和央、 眞田 敏 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育領域の教員として必要な知的障害に関する基礎知識を習得し、障害に伴う発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎的内容を説明することができる。			
授業の概要 この授業では、知的障害の心理・生理・病理の特性を脳の構造・機能に関連づけながら概説し、必要とされる基本的な支援方法について論じる。また、各種障害の特性とその特性に応じた基本的な支援方法にも言及し、知的障害の理解をより深める。特別支援教育の実践を経験した教員が授業を行う。			
授業計画 第1回： 知的障害概説（担当：大野呂 浩志） 第2回： 知的障害の生理特性：（知能機構）（担当：大野呂 浩志） 第3回： 知的障害の生理特性：（注意機構と覚醒）（担当：大野呂 浩志） 第4回： 知的障害の生理特性：（記憶と学習）（担当：大野呂 浩志） 第5回： 知的障害の生理特性：（連合野について）（担当：大野呂 浩志） 第6回： 知的障害の心理特性：（認知機構）（担当：安永 和央） 第7回： 知的障害の心理特性：（知覚機構）（担当：安永 和央） 第8回： 知的障害の心理特性：（問題解決メカニズム）（担当：安永 和央） 第9回： 知的障害の心理特性：（コミュニケーション）（担当：安永 和央） 第10回： 知的障害の心理特性：（対人行動・社会性）（担当：安永 和央） 第11回： 知的障害の病理特性：（染色体異常）（担当：眞田 敏） 第12回： 知的障害の病理特性：（遺伝子異常）（担当：眞田 敏） 第13回： 知的障害の病理特性：（代謝異常・脳形成発達障害）（担当：眞田 敏） 第14回： 知的障害の病理特性：（外因侵襲）（担当：眞田 敏） 第15回： 今後の課題と展望（担当：大野呂 浩志） 定期試験			
テキスト 教科書・参考図書等なし。資料を適宜配付する。			
参考書・参考資料等 教科書・参考図書等なし。			
学生に対する評価 授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名： 肢体不自由児の心理 ・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 章二、安永 和央 松本 好生、眞田 敏 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育領域の教員として必要な肢体不自由に関する基礎知識を習得し、発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎を学ぶ。			
授業の概要 この授業は、肢体不自由の生理・心理・病理に関する内容を詳述し、支援および学習法について理解することができる。この授業においては特別支援学校や民間支援機関で特別な支援の経験のある教員や小児科診療を行っていた教員が実践的な授業を行う。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：肢体不自由の心理・生理・病理と肢体不自由児教育（担当：高橋 章二） 第2回： 肢体不自由児の障害特性（担当：高橋 章二、松本 好生） 第3回： 肢体不自由と学習の困難（担当：高橋 章二、松本 好生） 第4回： 肢体不自由と障害受容（担当：高橋 章二、松本 好生） 第5回： 学齢期における中途障害と心理（担当：松本 好生、安永 和央） 第6回： 肢体不自由とは（障害の特性と、知的障害・その他身体障害との合併）（担当：高橋 章二、松本 好生） 第7回： 肢体不自由者の生理反応の特性①（呼吸・循環機能）（担当：高橋 章二、松本 好生） 第8回： 肢体不自由者の生理反応の特性②（脳・神経機能）（担当：高橋 章二、松本 好生） 第9回： 肢体不自由者の生理反応の特性③（筋機能）（担当：高橋 章二、松本 好生） 第10回： 肢体不自由に伴う二次障害について（担当：高橋 章二、松本 好生） 第11回： 肢体不自由と整形疾患（担当：眞田 敏） 第12回： 肢体不自由と神経筋疾患（担当：眞田 敏） 第13回： 肢体不自由と脳性麻痺①(全般)（担当：眞田 敏） 第14回： 肢体不自由と脳性麻痺②(リハビリテーション)（担当：眞田 敏） 第15回： 学習の振り返りおよび、今後の課題と展望（担当：高橋 章二） 定期試験 試験なし			
テキスト 教科書は使用しない。適宜参考図書を紹介する。			
参考書・参考資料等 資料を適宜配付する			
学生に対する評価 レポートと小テスト90%、授業態度10%で評価する。			

授業科目名： 病弱児の心理・生理 ・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安永 和央、島 治伸、眞田 敏 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育領域の教員として必要な健康と疾病に関する基礎知識を習得し、病弱児の生活上の問題に対する留意点と支援法を理解する。			
授業の概要 この授業では、病弱児の生理・心理・病理に関する内容を詳述し、健康についての定義、疾病発生メカニズム、アレルギー疾患、心疾患、腎・泌尿器疾患、小児期の悪性新生物、糖尿病・肥満などについて理解することができる。病弱児への学習支援を経験した教員と小児科神経科診療を経験した教員とが実践的な授業を行う。			
授業計画 第1回： 健康の概念、疾病発症のメカニズムと予防（担当：眞田 敏） 第2回： 小児の成長と精神的発達（担当：安永 和央、眞田 敏） 第3回： 身体の構造と機能（担当：眞田 敏） 第4回： 中枢神経の構造と機能（担当：眞田 敏） 第5回： 疾病と学校生活（担当：眞田 敏） 第6回： 主な疾患(1)気管支喘息等アレルギー疾患（担当：眞田 敏） 第7回： 主な疾患(2)腎・泌尿器疾患（担当：眞田 敏） 第8回： 主な疾患(3)循環器疾患（担当：眞田 敏） 第9回： 主な疾患(4)血液・腫瘍疾患（担当：眞田 敏） 第10回： 主な疾患(5)感染と免疫（担当：眞田 敏） 第11回： 主な疾患(6)小児の糖尿病・肥満・生活習慣病・成長障害（担当：眞田 敏） 第12回： 主な疾患(7)てんかん、神経皮膚症候群、水頭症（担当：眞田 敏） 第13回： 重症心身障害児の理解と心理・医療的ケア（担当：眞田 敏、島 治伸） 第14回： 小児の情緒的問題と心身症（担当：島 治伸、眞田 敏） 第15回： 今後の課題と展望（担当：島 治伸） 定期試験			
テキスト 教科書 特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理 小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著ミネ ルヴァ書房			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 試験70%、小テスト・レポート20%、授業態度10%			

授業科目名： 知的障害児教育 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野呂 浩志、林 栄昭 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 概念と定義等から知的障害の子ども観・教育観の概要を理解し、教育課程編成に及ぼす影響を考察したり、特別支援学校学習指導要領の特徴や特別支援学校や特別支援学級の教育課程の概要を理解する。			
授業の概要 この授業は、まず、概念と定義から知的障害の子ども観・教育観を探り、教育課程編成に及ぼす影響を考察する。特別支援学校学習指導要領を分析し、実際に編成されている教育課程を提示し、その内容を理解する。中学校、特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。			
授業計画 第1回： 精神薄弱から知的障害へ 第2回： 知的障害の概念と定義 第3回： 知的障害児教育の歴史 第4回： 養護学校の設立 第5回： 特殊教育から特別支援教育へ 第6回： 知的障害児の認知 第7回： 知的障害教育における自立活動 第8回： 教育課程における「領域」－ 養護・訓練と自立活動 第9回： 特別支援学校学習指導要領の構成と特徴 第10回： 特別支援学校小学部の教育課程 第11回： 特別支援学校中学部の教育課程 第12回： 特別支援学校高等部の教育課程 第13回： 特別支援学級の教育課程 第14回： 通級指導教室の教育課程 第15回： 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」 定期試験			
テキスト 資料を配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名： 知的障害児教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野呂 浩志、林 栄昭 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児教育を中心に、子どもの分かりやすく身につけやすい指導について理解し、実態に応じた指導を想起するとともに、家族の支援にも配慮できる知識をもつことができる。			
授業の概要 この授業は、「知的障害教育における指導法」をテーマに、知的障害の認知特性を授業に関連する様々な要素との関連で理解し、認知特性に沿った授業づくりについて学ぶ。中学校、特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。			
授業計画 第1回： 知的障害の認知特性（実行機能とワーキングメモリ） 第2回： 知的障害の認知特性と指導（注意の持続） 第3回： 知的障害の認知特性と指導（記憶の保持） 第4回： 知的障害の認知特性と指導（実行機能への配慮） 第5回： 知的障害の認知と授業づくり 第6回： 知的障害の認知と教材 第7回： 知的障害の認知と教科等合わせた指導 第8回： 遊びの指導 第9回： 生活単元学習 第10回： 作業学習 第11回： 自立活動の指導 第12回： 知的障害児の授業づくりの基礎 第13回： 模擬授業（遊びの指導） 第14回： 模擬授業（生活単元学習） 第15回： 模擬授業（作業学習） 定期試験			
テキスト 適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業態度20%、模擬授業50%、レポート課題30%。			

授業科目名： 肢体不自由児教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 章二・松本 好生 担当形態： クラス分け・単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標 肢体不自由児の教育課程、自立活動の視点に基づいた個別支援と学習指導について理解し、実践しようとする。			
授業の概要 肢体不自由児教育の対象となる子どもの疾患、教育場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に授業を行う。 ①肢体不自由教育の学校・学級等の制度を理解する。②肢体不自由教育における教育課程の編成について理解する。③肢体不自由教育における自立活動の指導について理解する。④肢体不自由者に対する個別の指導計画に応じた学習指導案を立案できる。			
授業計画 第1回： 肢体不自由教育の学校・学級等の制度 第2回： 肢体不自由教育における教育課程の編成に関する全体像 第3回： 肢体不自由特別支援学校における教育課程の編成、自立活動の意義 第4回： 肢体不自由特別支援学校における教科等の指導 第5回： 肢体不自由特別支援学級と肢体不自由通級による指導における教育課程の編成 第6回： 肢体不自由教育における自立活動の目標、内容、調和的発達の考え方 第7回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：個別の指導計画の理論 第8回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：身体の動き 第9回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：健康の保持 第10回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：人間関係の形成 第11回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：コミュニケーション 第12回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：心理的な安定 第13回： 肢体不自由教育における自立活動の指導：環境の把握 第14回： 肢体不自由教育における個別の指導計画：仮想例に基づく計画作成実習 第15回： 今後の課題と展望 定期試験			
テキスト	特別支援学校学習指導要領・テキスト肢体不自由教育		
参考書・参考資料等	配布資料		
学生に対する評価 授業態度、模擬授業、指導案各20%、試験40%で評価する			

授業科目名： 病弱児教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 章二、島 治伸 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標			
○病弱・病弱教育に関する基礎的な事項や教育内容・方法の基礎について説明することができる。 ○病気の子どもの心理を理解し、社会的教育的 支援について説明することができる。			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・病弱教育の意義、対象、システム、個別の教育支援計画、個別の指導計画、教育課程の類型等、病弱教育の基本について理解する。 ・児童生徒等が抱えている病気を理解し、個々のニーズに対応した教育課程や指導法(教科指導・自立活動など)について基礎的な知識を修得する。また、特別支援学校、特別支援学級、病院内学級での教育支援などの実際に触れながら、実践に生きる知識の修得を目指す。 			
授業計画			
第1回： 病弱・病弱教育の捉え方と病弱教育の意義・対象（担当：高橋 章二）			
第2回： 病弱教育のシステム（担当：高橋 章二）			
第3回： 病弱教育における教育課程の4類型（担当：高橋 章二）			
第4回： 病弱教育における個別の教育支援計画と個別の指導計画（担当：高橋 章二）			
第5回： 病弱教育の授業づくりの特色—教科指導の基礎（担当：高橋 章二）			
第6回： 病弱教育の授業づくりの特色—教科指導の応用（担当：高橋 章二）			
第7回： 病気の認識と自立活動（担当：高橋 章二）			
第8回： 病弱教育の自立活動の特色（担当：高橋 章二）			
第9回： 病弱児教育の歴史的変遷（担当：島 治伸）			
第10回： 病弱児の教育を保障するトータルケアとコーディネーション（担当：島 治伸）			
第11回： 慢性疾患の理解と学校生活（1）（担当：島 治伸）			
第12回： 慢性疾患の理解と学校生活（2）（担当：島 治伸）			
第13回： 慢性疾患の理解と学校生活（3）（担当：島 治伸）			
第14回： 医療的ケアの必要な子どもの理解と学校生活（担当：島 治伸）			
第15回： 継続した教育（担当：高橋 章二）			
定期試験			
テキスト			
富永光昭他編著『特別支援教育の授業の理論と実践』、あいり出版、平成30年 / 富永光昭編著『新しい障がい理解教育の創造』福村出版、平成23年 / 文部科学省『特別支援学校学習指導要領』（平成29、31年 改訂版）他			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
自立活動実践論	選択科目	2単位	大野呂 浩志、林 栄昭
			担当形態： 複数
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
自立活動の指導の意義を理解するとともに、教育課程における自立活動の位置づけやその実際の指導の在り方及び実践上の課題について理解することができる。			
授業の概要			
この授業は、特別支援教育における養護・訓練の設置に至る内外の障害観やそれまでの障害児教育に関する歴史的経緯について理解する。続いて、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の内容を分析し、その概要を理解する。中学校、特別支援学校での勤務を経験した教員が実践的に授業を行う。			
授業計画			
第1回： 自立活動の概要及び歴史			
第2回： 自立活動の教育課程における位置づけ			
第3回： 自立活動の内容（健康の保持）			
第4回： 自立活動の内容（心理的安定）			
第5回： 自立活動の内容（人間関係の形成）			
第6回： 自立活動の内容（環境の把握）			
第7回： 自立活動の内容（身体の動き）			
第8回： 自立活動の内容（コミュニケーション）			
第9回： 自立活動の個別の指導計画の意義と内容			
第10回： 自立活動の指導（1）時間における指導の理解			
第11回： 自立活動の指導（2）実際の時間における指導の分析			
第12回： 自立活動の指導（3）場面における指導の理解			
第13回： 自立活動の指導（4）実際の場面における指導の分析			
第14回： 自立活動の指導（5）実際の指導に関するまとめ			
第15回： 自立活動に関するまとめ（自立活動の効果と実践的課題）			
定期試験			
テキスト			
文部科学省 特別支援学校学習指導要領(平成29年4月)／特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼・小・中)(平成30年3月)／特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)(平成21年12月)／特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(平成30年3月)			
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する			
学生に対する評価			
授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名： 障害児教育相談と心理アセスメント	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野呂 浩志、安永 和央 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アセスメントに関する基礎知識、障害児教育相談に固有の知識、問題や支援方法について理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、アセスメントの概念とそれに用いる検査、そしてその応用について理解すること、また障害児教育相談において必要な知識を得て、実践に生かす姿勢を養うことである。民間の支援機関での特別な支援の経験のある教員が実践的指導にあたる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション：障害児教育相談と心理アセスメントとは（担当：大野呂浩志、安永和央）</p> <p>第2回： 小児の発達と発達検査（担当：大野呂 浩志、安永 和央）</p> <p>第3回： 個別式知能検査(WISC-IV)の理論（担当：大野呂 浩志、安永 和央）</p> <p>第4回： 個別式知能検査(WISC-IV)の実践での活用（担当：大野呂 浩志、安永 和央）</p> <p>第5回： アセスメントで用いる検査(DN-CAS、KABC-II)（担当：安永 和央）</p> <p>第6回： アセスメントで用いる検査(田中ビネーV等)（担当：安永 和央）</p> <p>第7回： アセスメントで用いる検査(その他の検査)（担当：安永 和央）</p> <p>第8回： 適応行動についての検査（担当：大野呂 浩志、安永 和央）</p> <p>第9回： アセスメントに基づく支援(読み書きなどの学習)（担当：大野呂 浩志、安永 和央）</p> <p>第10回： アセスメントに基づく支援(社会性、学習スキル)（担当：大野呂 浩志、安永 和央）</p> <p>第11回： 開発的・予防的支援(SST・構成的グループ・エンカウンター等)と障害告知（担当：大野呂浩志）</p> <p>第12回： 合理的配慮（担当：大野呂 浩志）</p> <p>第13回： 障害と今日的課題（担当：大野呂 浩志）</p> <p>第14回： 保護者・校内・校外連携（担当：大野呂 浩志）</p> <p>第15回： 障害児教育相談の模擬演習（担当：大野呂 浩志）</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜資料を配布する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業態度10%、レポート提出20%、定期試験70%で評価する。</p>			

授業科目名： 重複障害児教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋 章二、松本 好生 担当形態： クラス分け・単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：LD）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害、病弱、肢体不自由及び発達障害に関する基本的知識や障害のアセスメントに関する基礎知識、困難が生じるメカニズム、またカウンセリングそのものの基本的な知識について理解することができる。			
授業の概要 この授業では、重複障害を巡る医療と教育の現状について理解を深め、対応の概要に関する基本的な知識を身につける。また、学校や地域生活などの様々な場面における医療と教育、福祉との連携による効果的な支援について、基本的な情報をもとに、実際の支援内容を考える。民間の支援機関での指導経験のある教員と、地域での支援事業及び特別支援学校での指導経験のある教員が実践的指導にあたる。			
授業計画 第1回： オリエンテーション：重複障害とは（定義と歴史） 第2回： 重複障害児の理解（くらしの実際） 第3回： 重複障害児のコミュニケーションと支援 第4回： 重複障害児の特性と指導法 第5回： 重複障害の健康支援と支援機器（日常生活支援等） 第6回： 問題行動への心理的介入法（心理アセスメント、知能検査、発達検査等） 第7回： 発達障害と併存障害 第8回： 発達障害と二次障害 第9回： 学校場面における重複障害の支援の実際 ①感覚・運動機能トレーニング 第10回： 学校場面における重複障害の支援の実際 ②言語・コミュニケーショントレーニング 第11回： 学校場面における重複障害の支援の実際 ③心理療法 第12回： 学校場面における重複障害の指導の実際 ①盲重複障害者・ろう重複障害者への支援技法 第13回： 学校場面における重複障害の指導の実際 ②行動障害がある人への支援技法 第14回： 重複障害を取り巻く地域連携の現状を知る 第15回： 重複障害のある人への諸機関の連携と地域支援			
定期試験			
テキスト 文部科学省 特別支援学校 教育要領・学習指導要領（平成29年4月）／文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼・小・中）／文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）／文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編			
参考書・参考資料等 適宜資料を配布する			
学生に対する評価 授業態度20%、レポート提出20%、定期試験60%で評価する。			

授業科目名： 発達障害児教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野呂 浩志、松本 好生、島 治 伸 担当形態： クラス分け・単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：LD） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育領域の教員として必要な発達障害に関する基礎知識を習得し、障害に伴う発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎を学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、教育現場や実生活で出会う子どもを理解し支援ができることを目指して、本授業では発達障害とそれに関連する障害や状態について幅広く知識を獲得する。また発達障害のある子どもをとりまくさまざまな問題について考えていく。特別な支援の指導経験のある教員が実践的指導を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 発達障害とは（歴史と今日的課題）</p> <p>第2回： 学習障害(LD)の理解</p> <p>第3回： 注意欠如・多動性障害(ADHD)の理解と支援</p> <p>第4回： 自閉症スペクトラム障害の理解</p> <p>第5回： 自閉症スペクトラム障害の支援</p> <p>第6回： 発達性協調運動障害の理解</p> <p>第7回： 吃音、選択性緘黙の理解</p> <p>第8回： トウレット障害、強迫性障害の理解</p> <p>第9回： 二次障害の理解と支援</p> <p>第10回： 学習の支援(読字障害)</p> <p>第11回： 学習の支援(書字障害)</p> <p>第12回： 学習の支援(算数障害)</p> <p>第13回： 医療化論から見る発達障害</p> <p>第14回： 発達障害に関する研究・発達障害児の気になる行動への対処法</p> <p>第15回： 発達障害をめぐる排除と包摂</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 適宜資料を提供する			
参考書・参考資料等 適宜資料を提供する			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験80%、小レポート・小テスト10%、授業態度10%で評価する。</p>			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
視覚障害児教育論	必修科目	2単位	牟田口 辰己
			担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視） 		
授業のテーマ及び到達目標			
①障害のある児童生徒には多様な教育の場があり、②障害のある児童生徒にも見え方に不自由さを抱えていることを理解し、③視覚障害のある人々に積極的に関わることができるようになる。			
授業の概要			
この授業は、視覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、視機能の発達と評価、視覚障害の原因や状態の把握について解説する。障害のある子どもに関わる教師として必要な知識に視覚障害教育がある。特別支援学校（盲学校）勤務の実務経験を踏まえ、その教育課程と学習指導要領を解説するとともに、障害に応じた授業の特色を理解し、授業を構成するために必要な知識や技能、授業研究のための基礎的な事項について理解を深めることをねらいとしている。			
授業計画			
第1回： 視覚障害者と点字			
第2回： 日本点字の概要			
第3回： 視覚障害の状態の把握（目の機能と主要な眼疾患および心理学的知見）			
第4回： 視覚障害児童生徒の教育と就学支援			
第5回： 視覚障害教育の発展のあゆみ			
第6回： 学習指導要領と各教科の指導			
第7回： 盲児に対する指導の配慮と工夫(1)：点字教科書の編集			
第8回： 盲児に対する指導の配慮と工夫(2)：漢字・漢語の指導			
第9回： 弱視児に対する指導の配慮と工夫：見えにくさを補う光学補助具			
第10回： 弱視児に対する指導の配慮と工夫：拡大教科書の編集			
第11回： 教科指導の実際（国語における点字の読みの指導）			
第12回： 教科指導の実際（国語における漢字・漢語の指導）			
第13回： 教科指導の実際（算数と理科の指導）			
第14回： 視覚特別支援学校における「自立活動」			
第15回： 視覚障害者と歩行（介添え歩行の実際）			
定期試験			
テキスト 講義資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
香川邦生編（2016）五訂版 視覚障害教育に携わる方のために（慶應義塾大学出版会）			
学生に対する評価			
試験（80%）と毎回講義後に提出する「コメントシート」の内容（20%）で評価する。			

授業科目名： 聴覚障害児教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大森 修平 担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴） 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>聴覚障害の心理・生理・病理、ならびに教育課程と指導法に関する事項を学習し、聴覚障害幼児・児童・生徒にむけた教育を展開するための基礎的知識を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、聴覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、聴覚の解剖学的構造と機能、聴覚機能の発達と評価、聴覚障害の原因やきこえの特徴について解説する。また、教育課程と指導法に関する内容として、特別支援学校・学級（聴覚障害）等における教育課程の編成、ならびに環境把握やコミュニケーション、言語発達、教科学習、肯定的な障害認識、社会性の育成に関する指導の実際について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： きこえにくさの理解 第2回： きこえの仕組み 第3回： 聴覚の発達 第4回： 聴覚障害の原因と特徴 第5回： きこえにくさの程度とその分類 第6回： きこえの評価 第7回： 補聴器の構造と機能 第8回： 人工内耳の構造と機能 第9回： 聴覚障害と親子関係 第10回： 聴覚障害とコミュニケーション 第11回： 聴覚障害と書記言語発達 第12回： 聴覚障害児の教育課程及び自立活動等における言語指導 第13回： 発音発語指導 第14回： 聴覚障害と自己肯定感 第15回： 聴覚障害と社会性の発達</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 配布資料・音声教材、VTR			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井澤信三 他（2010）障害児心理入門．ミネルヴァ書房（参考図書） ・脇中起余子（2009）聴覚障害教育これまでとこれから．北大路書房（参考図書） 			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加意欲・態度（15%）、試験の成績（85%）をもとに、総合的に評価する。</p>			